

会議議事録

委員会	平成27年度 学校関係者評価委員会
学校名	東洋Fデザイン専門学校
会議名	第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成27年12月8日(火) 18:00~19:30
場所	東洋Fデザイン専門学校 イベントホール
出席者	<p>◇委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小寺 克一 (東洋Fデザイン専門学校 学校長) <p>◇委員 (順不同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺野 雅之 (大阪府立茨田高等学校 校長) ・鈴木 弘美 (株式会社インプルーヴ 代表取締役) ・西川 徹 (千林商店街振興組合 元理事長) ・藺崎 進 (東洋Fデザイン専門学校 卒業生) <p>事務担当者</p> <p>説明者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中林 大吉 (東洋Fデザイン専門学校 副校長補) <p>司会進行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幾島 淳夫 (東洋Fデザイン専門学校 教員) <p>書記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲田 和代 梅原 栄利子 (東洋Fデザイン専門学校 教員)

<p>議案</p>	<p>協議 I</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校概要について <ul style="list-style-type: none"> ◇「今年度の本校の取り組みについて」 ◇「学生の就学状況について」 ②自己評価の重点項目について <ul style="list-style-type: none"> ◇教育理念・目的・人材育成像 ◇学修成果・学生支援 ◇学生募集 ◇社会貢献・地域貢献 ③意見交換 <p>協議 II</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成27年度学校教育自己診断アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果について ・調査結果、分析、まとめについて ②意見交換
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長挨拶 ・委員紹介 ・職員紹介 <p>協議 I</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校概要について <ul style="list-style-type: none"> ◇「今年度の本校の取り組みについて」 <ul style="list-style-type: none"> 小寺校長より ・設備の改善 (染色工房ラボ 女子トイレ 他) ・退学者がでないような指導を心がけている ・技術力に力を入れている ・課外学習など刺激のある授業を取り入れている ・学校生活でいじめ、登校拒否が起こらないようにきめ細かい指導を心がける ◇「学生の就学状況について」 <ul style="list-style-type: none"> ・就職成果 平成55年度 100% 平成56年度100% ・資格修得成果 100%を目指して指導 ・退学者 平成26年度 退学者なし 平成27年度 現在0名 ・学納金 次年度改定 ②自己評価の重点項目について (別紙参照) <ul style="list-style-type: none"> ◇教育理念・目的・人材育成像 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度 週3日必修2日選択授業 ⇒ 平成28年度 週5日必修授業 ・担任制によるきめ細やかな指導について

	<p>◇学修成果・学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職相談指導は就職指導担当者と担任が連携してサポートしている ・夏季休暇中に特別対策授業を実施 ・4月初旬に全学生と教職員を対象の健康診断実施 ・本校卒業者は卒業と同時に「東洋学園すみれ会」の会員となる <p>◇学生募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、情報誌に学校の内容は客観的かつ正確に記載する ・ホームページ、ブログで日々の活動が確認出来るように取り組んでいる <p>◇社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪マラソンの時期にクリーンUP作戦に参加 周辺道路の清掃 <p>③意見交換</p> <p>[西川]</p> <p>洋裁に興味が無い人が多くなった中で、状況を変える取り組みを検討しては。地域でおこなうイベントにファッションショーなどで参加してはどうか。</p> <p>[寺野]</p> <p>連携高を広げて交流をしていけばどうだろうか。 高校生は初めて体験に参加した学校に入学する傾向にある 取り組むことが可能な高校と連携を検討してはどうか。</p> <p>[鈴木]</p> <p>何を求めて入学して、何を得て卒業していくのか？を考えてほしい。 極め細やかな対応は当たり前のこと。 この学校に入学したとき何に強くなれるのかの明確さが必要です。</p> <p>[藺崎]</p> <p>企業はコミュニケーションが不足することによって問題が起きる事がある 語学力をみがくカリキュラムが必要だと感じる。 きちんとした会話とコミュニケーションを養うことができる教育を。</p>
	<p>協議Ⅱ</p> <p>①平成27年度学校教育自己診断アンケート (別紙参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果について ・調査結果、分析、まとめについて <p>②意見交換</p> <p>[鈴木]</p> <p>教育理念の入口、出口をしっかりと確保してほしい。 変動する時代の流れに対応出来るように考える。 常に産業界とのコンタクトを密にして進める。 就職にどのように繋がっているかを明確にしていく事が重要です。</p>